
◎議案第57号の質疑、討論、採決

○議長（稲葉昭宏君） 日程第1、議案第57号 平成24年度松崎町一般会計歳入歳出決算の認定についての件を議題といたします。

9月11日に引き続きまして、質疑を続けます。

これより歳出の116ページ、商工費から最後の予備費までの質疑を許します。

○10番（鈴木源一郎君） 商工費の117ページ付近に商工費の展開があるわけですが、この内商工会の運営費の補助金が738万円という具合に支出されているわけですが、この商工振興費等々でなんというか・・・、いまシャッター通りというか、閉店、店じまいの戸数が非常に多くなってきて、さみしい町になってきているわけですが、そこら辺の施策はどういう展開がなされたかというのが一つと、会員の変遷というか、変化、会員がどういうふうに減ってきたか。増えることはないだろうけれど、減ってきたということについての推移を説明いただきたいと思います。

続いて、観光費がその次のページ付近に・・・、121ページですか、観光協会関係の決算があるわけですが、これも観光協会へ900万円出していると思うわけですが、この観光協会はほかの町と比べて、わが町の観光協会への助成はどんな状況か、説明いただいた上で、民宿の昨今の動態というか、推移というか、民宿の数の変化を説明いただきたいと思います。

○企画観光課長（山本 公君） 2点ですか、商工会の関係と観光協会の関係でございます。ご承知のとおり、商店がお休みの日に閉めていたりとか、あるいは経営者の方が亡くなってそのまま駐車場になってしまったりとかという状況はございます。これは、松崎に限らず全国でもそういう部分というのはかなり多く見られまして、問題になっているというようなことではございますが、商工会さんの方にはもう過去からお休みの日も観光客の皆さんなんかが来るので、開けていただけないですかということは町長から会長なんかにもお話をして、ご努力を願っているわけですが、なかなか営業の関係もあるかと思いますが、なかなか開けないというような状況もございます。

商店街については、個店、個々のお店で頑張っている、例えばお肉屋さんですとか、観光的な関係で頑張っているお店もありますので、そういう部分については、県の方とか、商工会の方とかで積極的に応援はしていると。

商店街についても、なんといいですか、よく年末の大売出しの時のセールに対して町の方で補助を出しまして協力をしているというような状況でございます。なかなかそれぞれが難しい状況ということには変わりございません。

それから、会員数の関係ですが、なかなかこれまでの推移というのをすべて持っているわけではございませんけれども、24年度の決算におきまして会員がやはり19人ほど抜けまして、現在24年度の末で368名という数字をいただいております。毎年毎年少しずつ減ってきているというような状況でございます。増える要素というのは、ほぼないです。

あと、観光協会の方ですけれども、900万円というようなことで、ほかの町と比べてどうかということですが、900万円以外にその観光の関係の別の補助金、観光振興対策事業補助金ですとか、かなり補助を出していると思います。

ほかと比べてどれくらい違うかという数字はいま手元にはないですけれども、西伊豆なんかと比較しますと、はるかに補助の額は出ているというふうに認識いたしております。多いと考えております。

観光の関係もなかなかお客さんの方が減っているという中で、いろんな施策を展開していつて、誘客キャンペーンとか、いろいろ松崎町を知っていただくというようなキャンペーンも繰り広げながらやっておりますけれども、なかなか厳しい状況には変わりありません。

あと、民宿の数ですけれども、多い時には町内で240～250あったかなというふうには思いますが、いま旅館とかを合しても100軒くらいの数になっておりまして、半分以下というような状況でございます。それはもちろん経営をよしてしまったりとか、一時の観光ブームの中で非常に多く民宿とか旅館ができた時期もございますけれども、今は民宿、旅館を含めて100軒あまりでお客様の受け入れをしているところでございます。

○10番（鈴木源一郎君） 商工関係振興費でいきますと、シャッター通りが非常に目立つということで、考えてみれば、何年も経たない将来は、お店がほとんどなくなってしまうのではないかなというような危惧をもつわけですが、中には蔵らさんみたいに頑張っているというところもちょっとはあるわけですが、全体としては非常に減少の事態があるわけですが、商工会で何か全体の・・・、シールなんかの助成とかということはあるけれども、この店じまいを防ぐ何か対策というのはやっているわけですか、あるいは全体に町政のうえで力を入れて、そういうものを防いで活気あるまちづくりとか、まちづくり等々のところでなんか頑張っているようなことがこの年度はあったわけですか。どういうことでしょうか。

それから、民宿は・・・、観光の落ち込みが深刻のわけですが、例えば石部地区なんかでは、民宿はほとんどないぞといって、数軒ないしそのくらいしかなくなっているという状況ですが、実数がなかなか正確につかめないのかなということもあるわけですが、説明では半分以下になってきているということのようですが、これも深刻な事態のわけですが、なんかその振興

対策といたしますか、何か抜本対策というか、何かあるわけですか。やっているわけですか。やってきたわけですか。どうですか。

○企画観光課長（山本 公君） まず、観光の方から先にお話をさせていただきます。

民宿につきまして、いま石部が9軒ほどに減っております。どういう対策をしているかといいますと、石部にはご承知のとおり棚田なんかがございまして、棚田で田植えですとか、稲刈りですとか、あるいはその他の作業にオーナーの方が1回で400とか、そのくらいの数が来てくれます。そういった中で、石部の民宿を宿泊先としてお泊りいただいている方が多くございます。そういう部分では棚田と合せた中での宿泊誘致というんですかね。そういうものも当然やっておりますし、岩地におきましては、修学旅行の受け入れという形の中で、少しでもお客様をお受けするような施策は行っているところでございます。

ただ、後継者の方がいないとか、そういうような状況の中で、民宿をよしてしまうという方もございますので、すべてがすべてということではございませんけれども、そういうものを通じて民宿の数を減らさないような努力はしているところでございます。

商工会の関係につきましても、やはりもうなかなかそちらにつきましても状況的にはやはり後継ぎさんがいないとか、そういうような状況は民宿と変わらないかとは思いうんですけれども、商工会の方で相談業務というのがあるのかなというふうに思いますけれども、いろいろ相談に乗ったりとか、できる中でいろいろ先ほど申しましたような補助もさせていただいておりますし、あるいは個店で先ほども・・・、個々のお店で頑張っているところもあるわけですね。個別に出してしまうと、例えば浅井さんですとか、はやまさんですとか、そういった観光客に対してもお店を活用していくというような取り組みなんかもされておりますので、そういった形の中で、頑張っているお店もありますので、そういうことで支援をしていきたいというふうに思いますし、また、商工会の中でブランド品を32品目くらい、お菓子とか、先ほど申しましたコロッケですとか、そういうものを認定しておりますので、そういったものをPRする中でお店が利用されればいいなというふうに思っているところでございます。

○議長（稲葉昭宏君） ほかにございませんか。

○5番（高柳孝博君） 121ページ、6款1項4目13節の委託料の関係なんですが、グリーンツーリズム推進事業委託です。これは494万7450円に対して不用額が95万2550円あるわけですが、これはグリーンツーリズムとして計画されたものがすべてなされたうえで、例えば経費削減とか、効率良くやったから減ったとか、あるいは計画そのものが、これだけ計画していたんだけど、できなかったということで残ったのか、その点が1点お願いしたいと思います。

それと、グリーンツーリズムで実際に活性化ということで体験学習ということもやっていると思うんですが、体験学習の中には泥だんごづくり、子どもが対象というようなものがあると思います。活性化という意味で、子どもは将来の・・・、育成という意味では大事かと思うんですが、大人の方、部外の方がどの程度参加されてきているか、そのあたりの数値がわかったら・・・、いまなかったら、また後で数値を教えていただければ結構です。

それが1点と、もう1点、決算書の附属資料の方でございます。附属資料の88ページ、窓口税務課の方の2款3項1目、その中で右のページ、88ページの方の外国人登録事務のところなんですが、政府の方も観光客を年間1000万人にするということで、最近観光客が増えているという話を聞きます。そういった中で、外国人の登録というのが、これがいまどういう傾向に・・・、26人ということなので、これが増えてきているのかどうか、どういう傾向にあるのか。

それと、この中には、どうも見ているとまだイスラム系の方とかは入っていないわけですが、そういった方が処理するような時に、例えば事務处理的に言葉の問題とか何か、どのように対処されているのか。

先般日本語が話せないツアーのツーリストがいたわけですが、非常に困っていました。そういった時にホテルも取れなくて悩んでいた方にホテルを案内してあげたわけですが、そういった方が増えてくるのではないかと・・・。たまたま英語とかなんかが通じればいいんですけども、中にはわからないということがある。そうすると言語の問題というのが出てくる。言語の問題というのは、一朝一夕でできるわけではないですので、そういったことも少し考えていかなければならない。そのあたりの考え方をお願いしたいと思います。

○企画観光課長（山本 公君） グリーンツーリズムの関係でご質問をいただきました。

グリーンツーリズムにつきましては、一般質問でもご質問があったかと思うんですが、平成8年から進めてきておりまして、振興公社へお願いしましたのが平成22年から振興公社を窓口として委託という形の中で実施をさせていただいております。

24年度、先ほど申しましたように、90万円何某の金額が不用額となっておりますけれども、24年度につきましては、子ども農山漁村交流プロジェクト事業ということで、岩地を中心とした活動を行っております。その関係で補助を若干いただいているものですから、その部分の収入が協議会としてあったということで、不用額も出ております。

それから、研修会、安全管理の研修会を行ったりとか、あるいは誘致活動ということで県内の小学校へ来てくださいよということでお願いの活動をしたりということは進めております。

ただ、すべてがすべてできているわけではなくて、体験メニューについてやはり指導者を増

やしていこうという部分がまだ少し足りないかなという部分もございますし、誘致活動につきましても、県内あるいは中京圏の方を含めてもっと来ていただけるような誘致活動が少しまだ不足しているかなというような認識はしております。

それから、体験メニューの関係で、泥だんごの関係でございましたが、泥だんごにつきましては、平成18年から実施をしているわけございまして、高柳議員なんかも泥だんごにご協力をいただいたりはしているわけですが、これまで25年の8月までで5452人、これは美術館で体験を受けた分でございますけれども、5452人利用者がおりました。学校関係で出向いて行ってやるというものはこの中に入っておりませんので、もう少し数が多くなってくるかなというふうに思いますし、振興公社の職員が出向かない場合でも、既に泥だんごをやっておられる町内の方が講師として出向いていることもありますので、数的にはもっと多くの体験者があると・・・、学校関係を含めてあるということで認識はいたしております。

ただ、それだけではやはり体験メニューというのもまだ少ないわけですので、いろんな農林水産業とか、あるいは文化的なものの中で体験ができるもの。指導者になってくれる方が当然必要なわけですが、そういうものを増やしていかなければならないなどは認識しておりますので、よろしくをお願いをしたいと思います。

○窓口税務課長（山本稲一君） 「外国人の登録人口の傾向は」ということでしたけれども、外国人登録人口につきましては、24年度末で26人というようなことになっておりますけれども、大きな変化はうちの町ではございません。23年度につきましても若干の出入りはありましたけれども、同数の26というような状況になっております。

それから、言葉の関係のご質問がございましたけれども、言葉の関係につきましては、英語ですと職員の中で・・・、転入をされてきてまったく日本語が話せないという方がいるわけですが、英語の場合には職員の中で英語を話せる職員に声をかけまして、その職員にお願いして通訳をしてもらうという対応をしておりますけれども、それ以外の言語になりますと、なかなか話せる職員もいないというようなことから、その辺は今後考えていかなければいけないのかなというふうに思います。以上です。

○5番（高柳孝博君） まず、グリーンツーリズムの関係なんですが、グリーンツーリズムをやった方のお話を聞きますと、いわゆる反省会というのがなされてなかったというような話もありました。すべてがなされてなかったわけではないと思うんですが、やはり本当にこれは、グリーンツーリズム・・・、町長もだいぶ力を入れておりますし、それから、全町みんな先生だということで体験をやっていくんだということで力を入れているわけですが、メニュー一つとっても、

やはり今のメニューでいいのか、本当に活性化に繋がっているのかどうか、そのあたりをしっかりと反省していかないと、ただやったと・・・これは施策ですから、この施策をやるのがやっぱり目的ではなくて、施策をやったことによってやっぱり町が活性化していく・・・、だから、そういった姿を少しみながらやっぱり更にこれを活性化するにはどうしたらいいか。グリーンツーリズム・・・、一般質問の中でもやったわけですけど、もう十何年グリーンツーリズムを実はやっているわけでありまして、そのあたりでやはり進展をしていくためには常に反省して、メニューがいいのか、体験に参加される人数の方が、例えば部外の方が入ってきて、何人かが定住するかとか、そういったようなことがみえてくるといいんですけど、なかなかそういうのがみえてないような気がします。

それと、指導員の関係も、本当にいいのかという話、それから指導方法がいいかどうかといったようなことをきちっと反省していかないと次に繋がっていかないんじゃないかと思います。そのあたりの進め方はいかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） グリーンツーリズム推進協議会というのは、私のなんといいですか、中心になるわけで、稲葉議員に言われて、「企画観光課からなんで振興公社に移すんだ」といろいろ文句を言われて、その時はなんとも感じなかったわけですけども、非常に大きなことをしたなと思っています。ただ、グリーンツーリズムに関してもいろいろあったわけですけども、本当に全町まるごとふる里自然体験学校ではグリーンツーリズムが中心となりますので、なかなか指導者というのが増えないことがありまして、なかなか体験メニューが増えないということがございます。

いま松崎町だけではなくて、西伊豆町とうまく連合して仲良くやっていこうじゃないかというので、向こうの方の指導者の方も中に入れて進んでいるところでございます。

ただ、高柳議員の言うことが本当で、なかなかメニューが増やせないというところが本当に残念なことで、これから本当にどういうふうにしていったらいいかというのを本当に真剣にやっていかなければ、これからのグリーンツーリズムはないなと思っていますので、そのことを考えてやっていきたいと思っています。

○企画観光課長（山本 公君） メニューの反省というようなこともいまお話が出たわけですけども、モニターツアーなんかも何回かやっておりまして、そこの中で先生方のご意見を伺ったりとか、体験された方のご意見を伺って、それを今後活かしていく、あるいは誘致活動の中に活かしていくというようなことも行っております。ただ、それが完全にうまくできているかということはありませんけれども、行っているところでございます。

体験メニューの関係につきましては、やはりやったださる方がいないとなかなかできないということでございまして、それは農林水産業あるいは文化的なものに関わっている方にまたお話をしまして、いまやっているものに「こういうことで、プラスすることによって、少しよくなるんだよ」というようなことをお話をしながら、ご協力をいただくしかないのかなというふうに思っております。

岩科学校の方でまゆの人形づくりというのも始めまして、やっておりますけれども、そういうもの、やはり松崎らしいもの、松崎でなければできないというものをメニューに加えて、多くの方にやっていただくというようなことをしてまいりたいと・・・。

松崎にとどまっていたく時間が長ければ、そこでまた食事のお店も利用してもらう可能性もあったりとか、利用してもらう形もあるわけですので、松崎にとどまっていく時間を長くしていくような施策を考えていきたいというふうに思います。

それから、定住の関係でございしますが、カヌーをやられている方が空き店舗活用の中で商工会さんが最初始めまして、今は自立をしてやっているわけですので、そういう方が多く入ってくるような形もまた考えていかなければならないのかなと思っております。

○5番（高柳孝博君） グリーンツーリズムの方はぜひ・・・、拡大していかないと、この町の活性化というのはなかなか難しいと思います。それができないようだと、ほかの施策もなかなか難しいのではないかと考えますので、ぜひ検討していただきたいと思います。

それから、先ほど窓口の方の課長から外国人の関係があったんですが、実際に来た場合に非常に困るということが起こりうるわけで、あるいは、例えば県とか何かに聞けばわかるのか、わからないですけれども、何かそのあたり、来た場合にどう対処するかというのをある程度マニュアル的に少し中で意識合せをしてやっていかれたらどうかと思います。

紙で書いて渡すという手もあるんですけど、なかなか紙で書いて渡すというのは、相手が返してくれたことがわからないということもありますので、そのあたりはまた少し検討していただけたらいいんじゃないか、そのあたりはいかがでしょうか。

○窓口税務課長（山本稲一君） 県下で窓口の担当者が集まる会議等もございしますので、そのような席で、浜松市あたりが外国人が非常に多いということで、どんな対応をしているのか、その辺はまた担当者の方で連絡を取り合って、対策の方を講じていきたいと思います。

○2番（福本栄一郎君） ちょっと1点だけ教えてくださいませんか。

136ページ、教育費の事務局費、予算が報酬33万円、支出済額ゼロ、不用額33万円。内容だけ教えてくださいませんか。

○教育委員会事務局長（石田正志君） これは、教育施設等整備検討委員会の委員報酬でございます。当初33万円取っておりましたが、ご承知のとおり公共施設関係はすべてですけれど、県の被害想定を待っていたということで、検討会議が開けなかったというような状況で、こういう状態になりました。

○6番（土屋清武君） この説明の資料の中の「予算と過大（過少）収入・支出の調べ」の関係で、8ページに土木費の関係、ページ124の決算書の中に・・・ここで委託料が177万1808円ということで、不用額になっているわけですが、この内容で何か説明の時には、登記業務委託や町道台帳修正業務委託というようなことで、支出見込みが減ったと。

町には相当に農道関係で未登記のものが・・・、これは町村合併前の関係もあったようにですが、たくさんあるようです。そんなところで、この本年は不用額が出ているわけですが、もうそういうことはなくなったと、未登記はもう既に処理しちゃったという解釈でよろしいですか。その辺を教えてくださいと思います。

○産業建設課長（山本秀樹君） ここについては、未登記がなくなったかという、これはなくなっていないと思います。ただ、今現在はある工事を行う時に、その周りをみていったら未登記が出てきたとか、そういうある程度事案が発生した時に関わってくるものを随時やっていくということで、すべて未登記を測量して、調べてということはまだやっておりませんので、まだ未登記は出てくるだろうというふうには思います。

ただ、今回の場合につきましては、山口雲見線とかそういうところの災害とか、普通の維持修繕工事、そういうものを行ってきた中で、未登記部分周辺を含めての未登記部分の数が少なかったと、そういうことからこの登記業務委託だけのところで見れば、約60万円そこで不用額が出ているわけですが、そういうことで、今回の対象事業の中で未登記に該当する部分が想定よりも少なかったということでございます。まだ未登記部分はあるというふうに・・・。

○6番（土屋清武君） 課長にいまこの場で聞いても回答ができないんじゃないかなと思うが、実質的に未登記がどんかいあるかということもわかってないわけだね。何筆あるか。

そして、今後それをどういうふうな方向で処理していくかという計画的なことを立てて、いつ頃までにやっていきたいかというようなことの考えをお聞かせいただければと思いますけれど、いかがでしょうか。

○産業建設課長（山本秀樹君） 今回未登記部分が通常道路で通っていて、いろいろ測量をしていったら、そこに民地がかかっていたとか、道路部分になっていたけれども、名前がまだ未登記だったとかというものがすべて測量が終わればわかるでしょうけれど、今現在まだすべて測量

しきれていないというような現状ですので、状況でいけば、やっぱり少しずつですけれども、また未登記部分はあるということで、すべてが把握できていないというのが現状でございます。

その辺につきましては、どうするのかというようなことがあるわけですが、一応事例として把握できたもの等については、できるだけ素早く地主さんとか、それから近隣の方々と話し合いをしながら、登記をしていくというような方向で臨みたいと思います。

○1番（藤井 要君） これは商工費の関係になります。120ページでしたか、6款1項6目の関係、伊豆の長八美術館、これは全体的に振興公社の関係は落ちております。8月時点で2カ所くらいですか、上向いているようなところもありましたけれども、特に長八美術館等が落ち込みが毎年毎年右肩下がりになっているというような状況の中で、入館者の減少に伴い施設管理費等々の支出が見込みより少なかった。

これは入館者が少なければ、売る物も少なくなって、回転率が悪くなるわけですので、必然的に費用も減ってくるわけですが、ここにあります賃金、これはそうすると、入館者が少なくなると「あなたは今日は休みなさいよ」というようなことをやっているのか。

それと、増やすためにどういう方策をしたのか、その点。

そして、もう1点、前に確か町長が長八のコーヒー喫茶になっているところですか、そこら辺を、広いスペースがあるところを私がジオサイト、化石等の展示等を……。町長は、あれはサンゴですか、そのようなことも考えた時に、前の契約というか、前の引き継ぎとか契約があつて、なかなかできないなんていうようなこともちょっと聞いた記憶もあるんですけども、そのところをもう一度説明願えますか。

○町長（齋藤文彦君） ジオサイトビジターセンターの件ですけれども、いろいろ考えたわけですが、中瀬邸の方でジオサイトビジターセンターを置くということで、いま民芸館の2階の方は光だんごとか、漆喰饅頭の体験工房みたいになっていますので、あれはかなり広い場所がありますので、これから本当に長八美術館に来る人が少なくなっているわけですが、あそこで本当にいろいろな体験で人が増やせばいいのかなと思ってやっているところでございます。

○企画観光課長（山本 公君） 長八美術館、だんだん入館者が下がってきている。行政報告の中でも入込状況につきましてご説明をさせていただいたところでございます。24年度3万5353人というような入込の状況でございました。前年度が4万730人ですので、大体5000人位減というようなことになっております。一時25万人とかという入館者もあった時がございましたけれども、なかなかそこから下がって落ちているというような状況は変わりません。

それから、職員の関係でございますが、臨時さん、パートさんがいま4名ほどいるわけですが、その方の分、ですから、お客様の入込によって出ていただいたりとか、そんな形で対応しておりますので、そういった部分が減ってきているところでございます。

それから、どのような取り組みをしているかということですが、特別展ということの中で、漆喰鰻絵のコンクールもこの間行われたわけですが、そういうものの特別展ですとか、あるいは去年ですと、民家の壁を切り取った、その壁の展示をして特別展みたいなものもやらせていただいております。併せて誘客キャンペーンですとか、体験メニューの中で泥だんごの体験ですとか、あるいは鰻絵の体験ですとか、そういうものを通じて来ていただくような形を行っているところでございます。

美術館があることによって、お客さんが町内に来ていただいて、先ほども言いましたように、食事をしていただいたり、ほかのところも利用していただければ、非常に効果が上がってくるのではないかなと思っております。

○1番（藤井 要君） 2点、もう少し聞きたいんですけども、町長がいま光だんごの場所として、いまあそこは使っていきたいということになるわけですね。ジオサイトの関係は中瀬邸でやる。あそこはもう光だんごの製造場所というか、そういうような場所としてこれから使っていく。

そして、もう1点、課長がいま2～3やっていることも答えてくれました。私も一般質問の中で抜本的に・・・、これはまつぎき荘のことを言ったんですけども。そういう・・・、これは特別展なんていうのは、毎年毎年やっているんじゃないかと思えます。たまたま今回はあそこのところの壁を切り抜いて、それが新たに出ましたけれども、それ以外に本当に「ここだ」というような、流れの中でやっているんじゃなくて、奇抜なことでもなんかそういうアイディアは出たことがあるのか。だから、町長、その2点。

○企画観光課長（山本 公君） 民芸館の活用の中で、泥だんごですとか・・・、泥だんごばかりではないわけですが、漆喰鰻絵の体験ですとか、これまで美術館の収蔵庫の2階、特別展なんかをやる場所でやっていたわけですが、それは夏ですとか、冬休みですとか、春休みですとかに限定されていたわけですが、通年でできるような形の中で、民芸館の2階の活用を考えていきたいという中で、既に泥だんごの体験あるいは漆喰鰻絵の体験をそこで行っているところでございます。

ただ、それだけでいいかということにつきましては、やはりいろんなものを考えて、そこが体験ができるスペースとして活用していきたいと考えております。

それから、奇抜なものというようなお話、特別展はこれまでずっと続けてきているわけで、漆喰鏝絵のコンクールはもちろんそのほかの特別展も開催をしてきているわけですが、そういうものを通じて、やらないより当然それを目当てに来ていただくお客さんもいるわけですので、美術館としてできることを考えてまいりたいなと思います。

ただ、美術館、松崎町だけではなくなかなか観光の動向も非常に伊豆半島全体が落ち込んでいるというようなこともありますので、ほかの協議会、ほかの市町の皆さんとも連携した中で伊豆へ誘客できる方法を、それはそれで考える。町としても考えていくということで進めているところでございます。

○町長（齋藤文彦君） 長八美術館の前の駐車場をいつも私は行き帰りに通るわけですが、本当にいつもガラガラでさびしいなと思っていました。

民芸館の2階の方は文化協会の方でいろいろ絵を飾ってくれていたわけですが、あそこは素晴らしい空間ですので、あそこで泥だんごとか、漆喰鏝絵とか、いろいろの体験ができれば、あの駐車場にも皆さんが集まって、それぞれ美術館等にも集まるのではないかなと思っていてところでございます。なかなか美術館にたくさん人を呼ぶといってもなかなか・・・、長八の作品を展示しているわけですが、本当に毎年毎年新しい作品を展示するようになれば、それなりのお客さんが来ると思うわけですが、本当に少しの展示の入れ替えということで、なかなか難しいと思うわけですが、先ほど課長が言ったようなことを考えてやっていきたいなと思っています。

○1番（藤井 要君） 3問目です。

こういう席でいまちょっとひらめいちゃったんですけれども、持論を言う場所じゃないことはわかっております。

課長がいろいろなことを考えてということをする中で、いまその言葉を聞いていて、私が、例えば松崎の生き物とかということで、フナがいたり、メダカがいたりとか、いろいろ松崎にいるものの展示とか、そして、松崎の海藻、この前ありましたけれども、町長も行っていると思いますけれども、ああいうのをやるのもいいのかなと、いまちょっと自分の中で出ましたので、参考にしてくれればと思ひまして、発言しました。

○町長（齋藤文彦君） 素晴らしいアイデアだと思いますので、いろいろ参考にして・・・、本当にわらにもすがる気持ちでいろんなことを、できることがあったらやっていきたいと思っています。

○7番（関 唯彦君） いまいろいろな議員の方が質問していて、聞いていますと、町は一生懸

命いろんなことをやろうとして努めているなというのはわかるんですね。

わかるんですけれども、この決算書、119ページ、ここに観光宣伝関係があります。ですけれども、相変わらずの感じしかやっていないような感じがしますし、観光協会に関するものに関してもあまり代わり映えがないような感じがするんですね。ですので、観光についての取り組みは一生懸命やろうとしていることは、今の答弁でわかってきているんですけれども、なんかやり方がまずいんじゃないのかなというのは、この決算書から見ると思うんですよ。24年度。

やはり観光にいま・・・、もうかなり落ち込んでいますので、いま力を入れていかなければいけない段階・・・、もう前から来ているんですけれども、それなのに、この決算から見ると、力が入っていないという形ですので、例えば大手の観光業者とどういうふうに町に来てもらうためのどういう方策が必要なのかという相談をしているのかどうなのか、そういう宣伝とかなんかで。

その辺がこの決算書から見えてこないんですけれども、その辺を教えていただきたいのが1点と、グリーンツーリズム、町長が一生懸命推進していると言うんですけれども、どうも成績が私には見えてこないんですね。そこで聞きたいんですけれども、このグリーンツーリズムというのは1人ですか、2人ですか。その辺の人数、何人でやっているのか。

振興公社にやっているということなんですけれど、振興公社だって手一杯の人数でやっているわけですからね。その辺でどういう運営をしているのか、その2点を聞かせてください。

○企画観光課長（山本 公君） まず、その大手の観光業者さんと何かやっているのかというようなお話がございました。

個別に大手の業者さんを集めて何かをやるというような形の中でのものはやってはいません。県の開催する商談会が東京とか名古屋とか大阪でありますけれども、そういうものに行って、松崎町を説明して、来ていただくような取り組み、それからキャンペーンに出向いて行って、松崎町を紹介する取り組みをしております。

それから、不用額が出ているわけなんですけれど、いろいろ。工夫をして余った部分というのもありますし、そうでないところもあるわけなんですけれども、観光については、委託あるいは補助を含めて観光協会共どもやっているところでございます。

それから、グリーンツーリズムの関係ですが、グリーンツーリズムの関係につきましては、先ほど申しましたように、3年前から振興公社の方に委託をいたしまして、振興公社で専任の職員を1人付けております。ただ、その1人だけでやっているわけではなくて、振興公社としてもやりますし、町の企画観光課、あるいは産業の部分で協力をしながらやっているところでございます。

田舎ぐらし応援ツアーというのも3回ほどやっているわけですがけれども、それは、振興公社、企画観光課、産業建設課共どもやっているところでございます。

○7番（関 唯彦君） これで終わりにしますけれども、グリーンツーリズム、1人付けているようなことを言っていますけれども、実質的に振興公社に1人付けているということで、これじゃ少ないんじゃないですかね。やはり力を入れるのであれば、何人か必要なんじゃないでしょうか。やはり都市との交流ですからね。やはり向こうに出向いて行ったり、いろんなことをしてやらなければならない。その中で、町の職員も入っているということなんですけれど、町の職員だってギリギリいっぱいやっているわけでしょう。業務だって。

ですから、やはり力を入れるのであれば、それだけのもの、予算を組んでそれだけのことをやっていくべきだと私は思いますよ。この予算からですと、どうしてもそういう、町長が言うように力を入れるみたいなことを言っていながら、予算では見えてこないところがありますので、その辺はもう少し考えていただきたいなと思います。

それから、いま観光の宣伝に関しても言われましたけれども、やはりもう少し積極的にもう少し、不用額も、余っているわけですから、もう少しどんどんそういう面でいろんな方策をしていくということ・・・、宣伝が松崎町自体は少なすぎるんじゃないか。または、相談を持ちかけるところが少なすぎるのではないのかな。

やはり自分たち、今までやってきているのがそのまま継続されていたり、それから自分たちの中だけで考えているということはまずいんじゃないでしょうか。やはり観光に対してもそれなりのプロというのがいろいろなところにあるし、または、大手の観光業者にも相談をしに行くとか、いろんなことで相談に乗ってもらうとか、いろんな方策をして、お金をかけてやはり松崎の観光に関しても力を入れていくべきだと思うんですよ。そういうことがこの決算書から見えませんが、町長、どうなんですか、その辺。どう考えますか。

○町長（齋藤文彦君） 観光は本当に松崎の基幹産業でありまして、関議員の言われることは本当に心に突き刺さるわけですがけれども、グリーンツーリズムの弱さというのは、自分が一番痛感してまして、今度「日本で最も美しい村」連合に入った・・・、そういうことがありまして、連合に入っている中には本当に体験メニューとかたくさんあるところがございまして、そこへぜひどのような形でどのようにやっているかというのを自分の中でやってみて、今から言うのは非常にあれですがけれども、勉強したいと。

それで、職員等もそこに研修に行って、ちゃんとした体制を整えたいなと思っています。人数も非常に少ないわけで、地域おこし協力隊みたいな人をその中に・・・、グリーンツーリズムを

やるかはわかりませんが、そのような中に入れて、グリーンツーリズムと一緒に推進していきたいなと思っているところでございます。

ただ、宣伝に関してもいろいろ新聞等に出ていますけれども、トップセールスということで、観光協会長と私とで各テレビ局の社長さん、副社長さんのところへ回りますけれども、鈴与さんの案内で回るわけですが、非常に一生懸命やっているわけですが、それが結果として表れないのが非常に残念で、本当に観光で生きていくためにはそういうようなことをちゃんと積み上げていかなければいけないなと思っています。

10月の・・・、日にちはわからないわけですが、静岡朝日テレビのテレビまつりみたいなものにまた観光協会の方で参加するというので、そのようなことをやりながら、松崎町を宣伝してやっていきたいなと思っています。

○議長（稲葉昭宏君） 暫時休憩します。

（午後 1時47分）

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 2時00分）

○議長（稲葉昭宏君） これより総括の質疑といたします。

質疑を許します。

○2番（福本栄一郎君） 総括ということですが、127ページ、土木費関係ですか、これは、道路利用者会議24万8000円と伊豆縦貫道西伊豆アクセス道路建設促進期成同盟会5万円、これは去年も同じような質問をしたんですが、担当課長が異動で代わられたということで、細かなことはわからなければいいんですが、まず、道路利用者会議、これは内容はどういったことをやるかということが1点と、それから、伊豆縦貫道西伊豆アクセス道路、これはまだ青写真ができていないと思うんです。西海岸においては。

それについて、どの辺を予定しているのか。組織としまして・・・、地図を見れば松崎町、西伊豆町、伊豆市の旧土肥町だと思うんですが、この辺の活動の内容。

その上の河津下田道路及びアクセス道路建設促進期成同盟会、これはもう大体ルートが決まっていますよね。そして、県の方の予算を付けている。こちらはいいです。

ですから、西伊豆アクセス道路建設期成同盟会のいま時点のこういった内容をやっているのか、組織を含めて活動状況を教えてくださいませんか。まず、その2点をお願いします。

○産業建設課長（山本秀樹君） 道路利用者会議の関係ですが、これにつきましては、私はまだこの会議の方には出ておりませんが、内容的には、県道とかそういうものの充実ということで、ここでいうと、道部から雲見間の道路の改良とか、そういうもののいろいろな話を県の方と練るというようなことも話の内容にはあるというふうには聞いております。

なお、この負担金等につきましても、内容的には事業割というのがありまして、24年度でいけば南川橋の工事分とか、県道下田松崎線の工事分とかというものもこの会費の積算の算出根拠になっているというようなことがございます。

それから、西伊豆のアクセス道路の関係ですが、これにつきましては、沼津河川国道事務所等が窓口になっていろいろ行っております。活動等は国の方へ陳情に・・・、これは縦貫道と併せてということですが、陳情に行ったりというような活動を伊豆圏域を含めてみんなで行っているというような状況でございます。

ただ、アクセス道路につきましては、福本議員がおっしゃるとおりまだ全然絵が出てきておりません。経験の少ない私の想像でいけば、今の現行の下田松崎線を改良してきて、やっていくのかなというような感じもしますが、いずれにしても、今現在は河津下田間の道路のとっかかりのところということで、西伊豆のアクセス道路まではまだはっきりした方向性が示されていないというのが現状でございます。

○2番（福本栄一郎君） まず、1点目の道路利用者会議ですけれども、これは先ほど課長の・・・、県道が主のようですけれども、私は去年も提言したんです。提言ですよ。

いわゆる防災対策、観光対策、これはリンクしていますよね。伊豆西海岸は特に温泉場、観光客の呼び込みをやっています。そういった場合に、私の言ったのは、トンネルが今の国道136、旧土肥町から・・・、もちろん船原峠から来るとかなり・・・、私は数えたわけではないですけれども、17～18、かれこれ20くらいあると思うんですよ。田子の・・・、堂ヶ島までのトンネルを入れますと。ということは、防災について、トンネルの中ではラジオが聴けないと・・・、あるいはラジオが聴けないということは携帯電話も通じないということだと思います。NHKじゃないですけれども、24時間いつでもどこでも安心をお届けする。NHKのテレビとラジオの受信料は皆さまにささえられていると、こういったことはNHKも言っています。当然NHKがメインになって放送してきます。トンネルが崩壊して閉じ込められた場合に生存者・・・、けが人とかいろいろありますけれども、ラジオも聞こえない、真っ暗闇の中で携帯も通じない。こういったことがやはり観光政策の一環として、よそから観光客を呼び込む場合もトンネルの中に閉じ込められた場合はどうしますか。少なくともラジオを聞きたいと・・・、閉じ込められた暗闇の中で

は・・・、真っ暗闇じゃあもう非常に心理的に不安を感じると思います。

ですから、いろんな遭難者なんか・・・、いろんな本なんかを読みますと、やはり海でも山でもそうなんです。音と光が欲しいんだと。こういった場合について、非常に心理的不安でショック死まではいかないでしょうけれども、その辺をよく考慮してもらって、少なくとも西海岸の20カ所くらいあると思うんですね。船原から堂ヶ島まで。そこへとラジオとか携帯が繋がるのを提案してもらいたいと思いますけれども、それが1点と、それから、アクセス道路ですけれども、これも町長にお伺いしますけれども、いわゆる伊豆縦貫道もいろんな用地買収、国の予算の付け方もあるでしょうけれども、あと50年後になるかもわかりません。今世紀中にできてくれればいいと思っていますけれどもね。

その中で西海岸のアクセス道路、下田から繋がるのではなくて、この西海岸に下りる道、松崎町・西伊豆町・伊豆市を含めて、その伊豆半島の背骨から西海岸へと抜ける道を・・・、働きかけはいかなもののでしょうか。それをお伺いいたします。

○産業建設課長（山本秀樹君） まず、私の方からお答えしますと、トンネル内のラジオの関係、そういえば、去年もこの時にそういう意見を出してくれていたなというのはいま思い出します。

これにつきましては、土木事務所の方もいまやっと今度は松崎から南の方に主力が移ってきたからというような話もしていますので、これについては、強い要望があったということで私の方からも伝えていきたいと思っています。

それから、アクセス道路の関係につきましては、これは沼津河川国道事務所の方も櫛の歯作戦といいまして、伊豆縦貫道を櫛の背骨としまして、あとあばらのように東西に路線を延ばしていくというような方向性をもって取り組んでおります。

箕作あたりから松崎へというような線も一応想定の中には入っておりますので、その辺は陳情の際にも強く要望事項の中に入っているというふうに認識をしております。

便利になるとみんな下田の方に行っちゃって、西伊豆地区が空洞にならないように、ぜひそういうアクセス道路についても要望の方は強く出していきたいと思っています。

○町長（齋藤文彦君） 本年度東駿河湾道路の塚原から塚本までが開通します。それで伊豆中央道に接続できます。

それで、ぼくらの方は土肥新田のところ、あの狭い道が広くなれば、東名を下りてからぼくらのところに着く時間がものすごく短くなります。

伊豆縦貫道の方はまだ肋骨も何もまだ背骨ができていないわけで、それを陳情しているわけですが、なかなか時間がかかると思います。

ロイヤルリゾートというようなことで、ぜひこの縦貫道だけは通してくださいと皆さんでお願いしているわけですが、結構時間がかかると思います。

ただ、先ほど申したように、ぼくらの方は東駿河湾道路が塚原から塚本まで今年度中に開通して、いま伊豆市の市長さんともいろいろお願いしているわけですが、土肥新田のところが広がると、非常にぼくらにとっては非常にいいのかなと思っています。そんなところがございます。

○2番（福本栄一郎君） これは要望しておきますけれども、伊豆縦貫道は高速道路と違って、いわゆる高規格道路、できれば既設の道路を使いながら、拡幅して、定時性、走行性、安全性、定時性というのは、大体松崎沼津間2時間なら2時間で行けるという、そういった定時性、これがメインでやっていると思うんですよ。

東名高速。阪神高速ということと違って、伊豆縦貫道は高規格道路、既設の道路を使いながらくる。

ですから、全部用地買収じゃなくて、第2東名高速みたいに全部用地買収じゃなくて、既設道路を使いながら、拡幅がありますよね。ということは、いわゆる西天城道路、旧天城湯ヶ島町、それと県道伊東西伊豆線、これは天城湯ヶ島町と繋がっていますよね。ですから、そんなに難しくはないと思うんです。新たにトンネルを掘削して最短距離・・・、それは理想論ですけども。既設の道路を使いながらくるということになると、既にルートがあるわけですよ。そうすれば西天城道路を使えば、いま宇久須地区へ下りられる。あるいは一色の方へ下りられる。更には県道伊東西伊豆線、その辺の働きかけを今後ともぜひ・・・、少なくとも今世紀中に造ってもらいたいということをお願いしたいと思います。

そのためには、町長の方で積極的に県なり国へと働きかけてもらいたいということを要望しておきます。回答はいりません。

○議長（稲葉昭宏君） ほかにございませんか。

○8番（一瀬寿一君） 総括ということでございますので、ページは申し上げますが、全体的にこれは町長にお伺いしたいと思います。

まず、大学へ入る時は相当の難関をもって入試に合格しないと大学に入れません。町長が冒頭次の町長選挙にも続投するよと言いましたので、そこでいろいろと聞くわけですが、まず、この政策・・・、また洗礼を受けて当選されてきていけませんので、何かこの4年間の企画というか、政策がぼやけている、ちょっと見えないなと私は思っているわけです。

そこで、本来ならば政策を訴えて、ちゃんと洗礼を受けてくるのが一番いいでしょうけれど

も、たまたま相手がいないということですから、これも仕方がなかったわけですが、一つこの4年間の間にあなたの町政運営として、4年間ですよ。それとこの24年度の1年間の総決算ではありませんが、この辺について反省点があるなら、3つ、もし良かったら、その点を3つ教えていただきたい。

それと、24年度分の執行に対する・・・、これは町民が十二分に満足しているのか、いないのか、充分そのサービスが行き届いているのか、いないのか。それぞれ皆さんの中から観光低迷、いろんなご意見も出ておりますけれども、「町長は何もしてくれない」こういう要望というか、私のところに意見が入ってきている。これは現実ではないかと思いますが、これをどういうふうに受け止めているか、その辺もお答え願いたい。

そして、こういうことになると、自然的に滞納者が多くなるのではないかと。経済事情もいろいろあるかと思いますが、収入未済額ですね。相当の額面がいまあります。これをどのように・・・、ただ滞納整理機構へとただ放り投げるのではなくて、この辺をどう改修していくのか、私は、3つお答え願いたい。

通常会社では、社長はすべて社長が責任を持ちます。松崎町といえば町長、ということですがその責任はどうあるべきなのか、町長にまたお答えいただきたい。これが2つ目ですね。

3つ目ですが、3つ目には、私は全体的なことで、指定管理者。この指定管理者の問題で、もう早々と振興公社に委託をしたいよと、町長の自らの口で、私は聞いていますけれども、あなたが21年度に町長になった。それから4年間ずっと赤字です。その赤字が、累積赤字が1億4000万円近くの赤字がある。

そして、その都度その都度毎年言っているけれども、「改善します」「何とかします」「頑張ります」これで改善になっているのか。一向にその数字が出ているんですよ。頑張ったら頑張ったような仕方を私はするべきだと思うけれども、その状態が全然見えてこない。

それと、もう1つ、町長と公社の理事長が・・・、町長がいくら公社の理事長・・・、あなたは自分に言うんですよ。自分に。この辺の機構改革もするか、しないのか、いろんな選択肢があると思うけれども・・・。ちょっと質問がえらすぎるかもしれないけれど、順番にお答え願います。

○町長（齋藤文彦君） すみません。一問一答形式で、もう一度最初からお願いできますか。

○8番（一瀬寿一君） あなたが4年間やりましたよと、そして、4年間やった時に、いい点悪い点があったら、3つ言ってくださいよと、そして、反省点でいいですよ。良かった点を3つ、反省する点を3つ、この24年度の分を含めた中で言ってください。ということですよ。

○町長（齋藤文彦君） 私は相手がいなかったわけで、非常に消極的支援ということで、町長に

なって4年間やってきたわけですがけれども、私は、花とロマンのふる里づくりは松崎らしい田舎づくりだ。少子高齢化を土台としたコミュニティづくりだとやってきました。

私は4年間やってきて、いろいろ町の中をぐるぐる回って、私はコミュニティを磨くということは、本当にコミュニティが弱くなっているわけですがけれども、その中で、コミュニティを磨いて・・・、一般質問でも言いましたけれども、コミュニティのその人々の心根の高さとか、優しさというのが松崎町が今までやってきた文化とか伝統とか、景観というのに反映されて、松崎町は人口が少なくなっているけれども、住む人にとっては、そんなに4年間で悪くなったとは私は思いません。

非常に東日本大震災等があって、非常に経済も厳しいし、観光客も非常に減少して、非常に厳しいところですがけれども、松崎町は松崎町なりに私の政策に皆さんが応えてくれたといいますか、職員も応えてくれて、それなりのことができていると思っています。

3つと言いますけれども、いろいろあるわけですがけれども、それなりの芽が出てきているのかなと私は感じているところでございます。そういうものがなければ、私は次の町長選には立候補しません。そのようなことがありますので、それなりのなんといいますかね、灯りというのが町中に見えてきたから、ぜひこれを継続してやっていきたいということで、町長に再度立候補したわけでございます。

ただ、反省点としましては、やっぱり私はグリーンツーリズムうんぬんと言いましたけれども、先ほど副議長にも言われましたけれども、なかなか目に見えてこないというのがございます。

ただ、なかなかこういう状況で・・・、非常にずるい言い方かもしれませんが、こういう日本が疲弊しているところで、なかなか数字を出すというのが厳しいことだと思いますけれども、蔵らさんとか、いろいろな若い人たちが、いろいろなグリーンツーリズムの動きをし始めてきましたので、それなりの成果は上がってきたのかなと思っています。

ただ、皆さんの本当に目の前に数字として表れてないというのが非常に私の一番残念に思っているところでございます。

住民満足度として「何もしてくれない」というような声を聞かれると言いますけれど、私のところには「結構やっているじゃ」というような声が聞こえてくるわけでございます。これは他人が判断するわけですから、私がうんぬんするわけではありませんけれども、いろいろ町長というのは、本当に文句を言われるのが商売で、いろいろ言う人があるんですがけれども、私は私としてそれなりにやっているなと思っているところでございます。

非常に・・・、なんといいますかね。税金というのは、本当に税金を納める人、納めない人がい

るというのは非常に不公平で、税金を納めるのは義務なわけです。いろいろ滞納があるわけですが、いろいろな聞いてみますと、本当に生活が厳しくて困って払えないという人が大多数というように聞いています。

ただ、県の方からもいろいろご指導を受けて、やっぱり取れるところからは絶対取ろうじゃということで、いま職員にはっぱをかけてやっているところでございます。

指定管理者と町長を兼ねているというのは、ずっと言われていることで、なかなかどうしたら一番いいのかというのは、非常に難しいところがあるわけですが、今までこれやってきた以上、続けていくわけですが、何かいろいろ考えていい方策があったら・・・、それなりに考えていきたいと思うわけですが、今はこのままでやっていきたいと思えます

私は、まつぎき荘がですね。あれは松崎町の誇りで、松崎町が経営していくのが私は一番いいなと思っています。

私は、グリーンツーリズムの総本山にしたいなとも思っているわけです。いろいろ伺いますか、結果が出ないところがありますけれども、国民宿舎の時ですが、非常に売上があった時には、一般会計の方に2千万円位入れた時もありますし、今は非常に厳しいところでございますので、いま施設管理者も来ましたし、松崎と企画観光課、振興公社、まつぎき荘と非常に連携を密にして、やっていますので、それなりの効果が私は出てくるのかなと思っています。ところでございます。

○8番（一瀬寿一君） 最初の質問に、反省点を3つ、良かった点を3つと言いましたけれども、なんか明朗な回答ではないような気がいたします。そういうことで、安全答弁だなとは思っておりますが、24年度で、要するに今期のこの総決算ですよ。決算で執行について、執行率も聞いていますよ。私も細かいところはこの4月まで監査をやっていましたから、それは細かいところは申し上げませんが、全体的なところで私は申し上げているわけです。

そして、その執行に対して充分満足で、これで良かったかと、そして、おれはこれだけやったから、絶対皆さんには、何も言われなくても誇りを持っているという返事だったら良かったけれども、なんか全然あいまいなようなあれですから、この辺がちょっと私は皆さんから言われる人柄とか、いろんなことは、あなたはいいよと言われてますよ。

しかし、やっていることは、もうちょっと厳しくやってくれなきゃ困るというのが、充分町民の皆さんから満足度が得られていないとは思っているんです。ですから、それを言ったわけです。その辺をもう1回やってもらうことと、これは最終的に、この収入未済額はどうなるんですか。

これは本来町長の責任ですよ。町長の。

町長がどうするかということはやはり課長連中、部下の皆さんに命令をしなければならない。その辺がちょっと私は不足しているなと思っています。その辺をもう一度最終的な回答を願いたい。

それで、これは振興公社、これも私の持論でいくと、もうそろそろ半世紀になります。やがて50年ですよ。そこで昔のことを言っただけなんですよ。今の時代は、今の時代に対応しなければだめなんです。

静岡県の静岡空港をみてください。赤字になれば、26年度から民間へ委託すると。県でさえそういうことをやっている。本当の小さいところから大きな被害になってくる。これが私のあれですよ。まだまだ全然町長は反省しているだけ、なんだかわからないという・・・、本来・・・、あなたは今回4年やって、先ほど私が言ったけれど、4年間赤字できている。何回も毎年私が言っているんですよ。だけど、それが直らないじゃないですか。ということを私は言いたいんですよ。

アメリカのデトロイト市は財政が破たんしたということも聞いておりますけれど、やはり少ない・・・、いまだき・・・、洋ランセンターだってやめました。その辺は今後考えなければちょっとだめじゃないか。全然町長は考えているとは私は思えないけれども、もうちょっと身に浸みた回答をお願いします。

○町長（齋藤文彦君） 最初まつぎ荘の方からお答えしたいと思いますけれども、いろいろ厳しいことを言われるのはわかっていますけれども、赤字が出ているわけですから、文句を言えないわけですが、私は、非常に厳しい状況の中で、これだけやっているのは、それなりにやってきたなと私は思っています。

それで、いろいろ4年間の間に本当にいろいろ皆さんと話をして悩んだわけですが、施設管理者をそれなりに・・・、なんといいですか、上向きに向かってきたということが・・・、私は肌で感じています。従業員の皆さんもそれなりの熱意が伝わってくるようになって、それなりのことができると思っています。

私はずっとこの3年間でぜひ振興公社でやって、それなりの形をつけてみたいなと思っています。

これが答えになるのかわかりませんが、私は、やっぱりあれは松崎町の誇りとして、本当は町が経営して、黒字になるのがいいわけですが、なかなか厳しいところがありますけれども、私は町長として、あそこは町で運営していきたいなと思っています。

収納のことはいろいろ言われることはわかるわけですがけれども、どこに行っても100パーセントということはありません。担当者にも不公平のないようにやれと言っているわけですがけれども、私はこれ以上の答えはありません。

○窓口税務課長（山本稲一君） 収入未済額が非常に多いというようなことで、平成24年度末で町税で9700万円ほどあるわけでございますけれども、税というのは、賦課徴収において公平・公正であることが原則でありますので、実際財産調査をして、もう生活も窮迫して生活していけないよというような方につきましては、執行停止をさせていただきまして、不納欠損というようなことをさせていただきますけれども、財産調査をして、支払能力のある方につきましては、徴収の方をしっかりとしていきたいと考えております。

今年度も既に財産調査の方を始めておりまして、百数十件になろうかと思っておりますけれども、そちらの方を進めておりますので、そういったことでご理解をお願いしたいと思います。

○8番（一瀬寿一君） 町長の足を引っ張るということじゃなくて、あなたが続投するからね。こんだけ言っておかないと、しかとやれないと・・・、これは一つ聞いておいてもらいたいけれども、結局、足を引っ張るのではなく、良くさせるために私は言っているわけです。

それで、町民の意向はこうだよということでもあります。

だから、経済の面でもそうです。先ほどからも観光が低迷している・・・、みんなね、どんどん、どんどんみんな廃業届ですよ。こういうような状況は町長一人の責任ではございませんけれども、なんか迎え水をやるとか、なにかしたら、こういうふうにしましょうとか、いろんな方法がまだまだたくさん方法論はいっぱいあると思う。

そして、最後の振興公社の方ももっと振興公社の中に入って、そして、皆さんの意見をちゃんと聞いてみてください。誰がじゃないけれども。やはりみんながやる気になっているのか、いないのか、そして、これはそろそろもう限度があるから、それは今までやってきた・・・、成功した時は大変いいですよ。それは。やっぱり不成功になれば、考えなければならない時が来ると思う。

だから、その辺はもう一度やっぱり考え直して、もっともつとこの公社に委託するというのは、議論をもつと議会の中でもさせてもらって、町長自らやる、やる、やるって、何のためにやるのか、その辺の長所も短所もわからないで、どんどんやる。こういうところは、ひとつ今後検討していただきたい。この辺をもって、私は3ついろんな難しいことを言いましたけれども、最後に町長の決意を。

○町長（齋藤文彦君） まつぎき荘のことは、私が先ほどずっと申しているとおりでござ

ざいます。

ただ、議員の皆さんいろんな考え方があるわけですから、議員の皆さんから本当にいいアイディアがあったら、取り入れていきたいと思うわけですが、議会の皆さんと話あって、本当にどうしたら一番いいのかというを話し合っていきたいと思います。ただ、私としては、今のままでいくのが一番いいのかなと思っています。ただ、ずっと公営というようなこともなかなか難しいと思います。だけど、3年間だけはそれなりに決意を決めてやっていきたいなと思っているところでございます。それでいいでしょうか。いろいろ質問をいただきましたけれども、よく稲葉議員におれは麦踏みだから、麦を踏んで、お前は立ち上がってこいとよく言われますけれども、いろんな批判を受けてこれからの4年間・・・、もし受かったら、やっていきたいなと思っているところでございます。

○7番（関 唯彦君） 2点くらいお伺いしたいと思います。

まず、資料の方の「主要な施策の成果を説明する書類」です。その60ページです。

現年度、これは徴収率がかなり上がっています。これは6月から会社とか、そういったところで直接徴収して納めるという形で、そのために増えたんでしょうか。また、これからこういう形で徴収率が上がるのか。その辺を1点教えていただきたいと思います。

そういうふうになってくればだんだんと・・・、税の上がってくるのがだんだんとみえてくるな、滞納が減ってくるのではないかと思いますけれど。

それと、2点目として、この24年度の決算を見ると、かなり貯め込んでいますよね。私なんかでも補正で公共施設整備の基金1億円ですとかね。または、予算の時の基金積み立てで2億円くらいというのを認めています。実際ね。そして、補正なんかでも認めているんですけども、最終的に1億8000万円、繰越を除いても1億5000万円とか残ってきているんですけども、全体からみて、地方債が減り、預貯金を貯め込んだという決算にどうも思えるんですね。

ですから、先ほど言ったように町の健康増進、やはり先進地である長野だとか、いろんなところに行って、そういう話を聞いて来て、どうやっているのかというのを、そういうもの、いろんなものを参考にするとか、または、観光に関してもいろんな方策をしていないんじゃないか、そのためにこうやって余っているんじゃないか。または、地域の要望を・・・、吸い上げ方が少なく、まともに使われていないんじゃないか。住民のために・・・、なんというんですか・・・、24年度お金を残し過ぎてしまったんじゃないかというふうに思うんですけど、その辺はいかがなんでしょうか。

○窓口税務課長（山本稲一君） 60ページの関係でございましてけれども、議員がおっしゃられて

いるのが、町民税の関係かと思いますが、町民税の関係につきましては、基準としまして、3名以上の従業員を使っている事業所につきましては、特別徴収というようなことで、事業所の方を指定させていただきまして、町民税を普通徴収ではなくて、特別徴収といったことで、給与の方からいただくというような制度をとっておりまして、現在455の事業所の方に通知の方をさせてもらっておりますけれども、特別徴収がされていけば、今後も町民税につきましては、これぐらいの徴収率が得られるのではないかと考えております。

○総務課長（金刺英夫君） 私の方から予算の・・・、貯め込んでいるのではないかとというようなお話でございますが、決算書の18ページに基金の一覧がございます。こちらの方で本年度の取崩、積立等を経まして、最終的に24年度末で基金総額で18億円からが残っております。

この内財調が7億3200万円というふうなことでございまして、これまでの基金の状況をみてまいりますと、財調を最高に積み立てた時は9億6000万円ほどございまして、ある程度ここで9億円というのはちょっと行き過ぎかなという感じはしておりますけれども、ある程度の数字になってきております。

そういった中で、補正の時にもやはり関係員からそういった意味合いの指摘を受けておりますので、今後要望等々を来年度予算編成に向けましては、そういったものを積極的に取り入れた中での予算編成というものが大事だなということは財政担当とも話しておりますので、ある程度の・・・、そうは言っても基金というものも用意しておかないと、小さな町ですので、ちょっとしたことでも財政運営が難しくなる面もございますので、どのぐらいの財調が妥当かというようなところになろうかと思いますけれども、大きな市ですと5パーセントから15パーセント、予算のそのぐらいの額というようなことが言われていますけれども、それからすると、うちの方は大変、割合的には多いのかなと思いますけれども、予算規模が小さなところですので、これはやむを得ないのかなと考えております。

そういったことも踏まえながら、一応この基金の積立、それから予算編成、そういったものを合せながら、うまくバランスをとって、今後も続けてまいりたいと思いますので、ご理解のほどをお願いしたいと思います。

○町長（齋藤文彦君） 実質公債費比率と将来負担比率は県内でベスト5に入るわけですが、入るということは、事業をしてこなかったということにもなるように思います。

それで、今まで・・・、先ほど総務課長が申しましたけれども、いま松崎町はそれなりのことがやれる状態ができてきたと思います。

関係員の言われるように、本当にそういうことをやっていきたいなと思っています。松崎町

もこれから幼稚園、保育園、給食センター、そして防災に関する、非常にお金がかかるわけですが、そのようなことを精査しながら、これからもやっていきたいなと思っているところでございます。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○10番（鈴木源一郎君） 企画にお聞きします。

この町の町営の入館施設の実績の関係ですが、46ページ付近にもあって、ほかにも収入の方にもあるわけですが、非常に落ち込んで、長八美術館でいくと、3万何千人というふうになっているわけですが、この年度にどういう挽回策を打ってきたかということが1つです。東日本の落ち込みの影響もあるとは思いますが、どういう手を打ってきたか。

それで、はじめ当初の計画では、美術館の一つの例で言えば、6万人とか結構多い人数だったと思いますが、結果は非常に低いところで終わっているというのは、どこに問題があるのだろうかというように思いますが、そこら辺を答えていただきたいと思います。

もう1つ、ついでにお聞きしますが、住宅リフォーム、これも企画かな。住宅リフォームの関係、69ページにあるわけですが、これは、附属資料などで35件リフォームの助成があったように、584万円ということですが、件数の動向はどんなふうなことでしょう。

地元の業者が請けるということが条件だろうと思いますが、件数の動向を説明いただいて、あと、波及効果ですね。地元の景気にどういう波及効果、どんな金額、波及効果があったかということも答えていただきたいと思います。

○企画観光課長（山本 公君） 町営観光施設の入込みの関係ですが、行政報告あるいは一般質問、今回の決算のほかの議員さんの中でもご質問があったわけでございます。

美術館が先ほど申しましたように3万5000人、前年が4万人余りということで5000人ほど減っております。重要文化財岩科学校が2万2858人ということで、前年が2万4303人ですので、2000人位減っているかなと。

民芸館、明治商家中瀬邸についてもやはり落ち込んでいると・・・、道の駅花の三聖苑につきましては、1000人位増えているということでございます。

いずれにいたしましても、入館者の実績が下がってきているというようなことは事実でございます。それらの入館施設の入館者数で13万4000人位、平成24年度お迎えをしております。それも前年より減っておりますけれども、当然。24年度、13万4000人です。

それで、どのような策を取ってきたかということでございますが、これも一般質問の中である・・・、どういった条件なのかというようなことで町長の方からもご回答をさせていただき

ましたが、24年度、新東名の開通ですとか、あるいはスカイツリーのオープンですとか、あるいはヒカリエですとか、そういったほかの観光施設ができてまいりまして、伊豆半島全体への観光が少なくなっているということも当然あるわけございまして、そういうような部分がございます。

各施設におきましては、先ほど美術館・・・、藤井議員のご質問の中でもご答弁させていただきましたが、いろんな特別展ですとか、あるいはエージェント活動ですとか、そういうものをやって、あるいは体験メニューですとか、そういうものをやっております。

重要文化財岩科学校につきましても、体験メニューですとか、あるいは施設の改善として、多目的トイレを整備したりとかという事例もございます。

中瀬邸についても特別展をやったり、あるいは三聖苑についてもいろんな料理のメニューを増やしたりとか、それぞれの施設での取り組みはしているところでございます。

ただ、なかなかそうは申しまして、お客様が少なくなっているということは事実ですので、それは先ほども申しましたように、各近隣の市町あるいは伊豆半島全体で構成する観光協議会等と連携を取りながらやっていくというようなことでございます。

それから、リフォームの関係、どのような状況になっているかということでございますが・・・。ごめんなさい。予算の関係がありまして、目標に対してかなり違うのではないかと思います。ことで、24年度、当初6万何千人の入館者に対して、実質的には3万5000人位になってしまいましたけれども、それはなぜなのかということでございますが、当初、予算を作る時にかなり高い目標値であったかなというふうには思います。

25年度の予算においては、この実態プラスかなり努力目標を入れた数字を策定してございますので、当初、24年度当初7万人、6万9000人というような形で出しておりますけれども、それよりは少ない数になっております。

それから、住宅リフォームの関係ですが、24年度、補助金額で584万7000円というようなことでございまして、600万円の予算に対しまして、584万円ということで、ほぼ・・・、執行率が高いかなと思っております。件数的には35件の方に住宅の修繕、改築ですとか、そういったものに活用していただいております。

これは、なんというんですかね。住居を整備していただくことによって、地元の工務店さん等を利用していただいて、そちらの方の活性化というんですかね。売上を図るとか、そういったこともあるわけございまして、あるいは住環境の整備というようなこともあるわけでございます。

それから、そのことによってこういった効果があったかというわけですが、35件の補助金584万7000円を補助しているわけですが、それに対する事業費が5470万円余りの事業費でございまして、35名の皆さんがやったのが、5500万円位ですね。

前年が、23年度においては26件で、やはり5250万円ほどの事業効果があったということでございます。

なお、今回の補正予算でも100万円増額をさせていただいておりますが、8月末時点で460万円位の執行をしておりますので、補正をさせていただいたわけですが、8月末で4000万円ほどの事業効果がございます。

従いまして、9月、10月、11月、12月、1月というようなことの中で、補正させていただいた金額で対応させていただくことになるかと思っております。ですから、前年より25年度については、上がっていく可能性がございまして。

○10番（鈴木源一郎君） リフォームの方から今度はいきます。

お聞きしたいのは、一つは、新築あるいは改築で町内業者、町内業者では助成が受けられないということになっているんじゃないかと思っておりますけれども、そうなんですか。

その改築、増築、新築の中で、適用されたこのリフォーム助成が適用されたのは、100パーセントじゃないと思うんですね。いろいろな何とかホームとかが結構多いわけですから、新築、改築は減っていると思いますけれども、そこらの対比というか、件数で全体の不振、ここはやる件数との対比はどんなふうにとらえているのでしょうか。

それから、5400万円とかの波及効果があったのではないかというのは、やっぱりデータでおおよそ出した数字ですか。どういうことですか。それがリフォームの関係。

それから、入館施設の関係では、非常に低い水準になってきたと、3万数千人とかの水準になってきて、かつて、長八美術館を作る前のような水準にほとんどなっていると思うんですね。2万人、3万人の数字ですから、こういうふうになってきて、なかなか歯止めがかからないという状況で下がってくるわけですが、なんか打つ手が非常に・・・、現場で説明はしてくれているわけですが、なんかもっと抜本的な、食い止めていくような対策というのが・・・、町長、なんか取れなかったんですか。あるいは考え方として、こういうことがあるんじゃないかということがあるわけですか。説明いただきたいと思っております。

○企画観光課長（山本 公君） それでは、住宅リフォームの関係で、まず、ご説明をさせていただきます。住宅リフォームにつきましては、住宅改修事業補助金ということで、平成23年度、23年4月から実施をしております、今年度で3年目に入るわけでございます。

対象については、増築、改築、修繕ということですので、新築、家をそのまま建ててしまうという部分については、該当にはなっておりません。修繕あるいは増築、改築でございます。

それで、10万円以上、99万円までが20パーセントの補助率です。100万円を超えますと、20パーセントなんですけれども、最大で20万円までということになっておりますので、そういうような状況で進んでおります。

ですから、民間の建てている新築うんぬんというお話がありましたけれども、そこは把握はできておりません。新築の部分についてはちょっとわからないということです。

それで、やられる方は当然町内の業者さん、工務店さんを対象に行っておりまして、24年度は12業者さんが携わってくれているところでございます。一応役場の方に登録をしていただいて、業者登録をしていただく、滞納がないこととか、いろんな条件があった中で、登録をしていただいて、その業者さんがやるそういう改築、増築、修繕について補助を出すということになります。

先ほどの5470万円という数字は、当然補助金の申請をしていただくわけですので、その中で把握している数字ですので、だろうということではなくて、これだけの効果があるということです。工事金額を全部足していった金額ですので、これが効果というか、実際に使った事業費だということになります。

○町長（齋藤文彦君） 長八美術館の入館者の増加の件ですけれども、あれは長八美術館の作品しか展示していないわけで、それを入れ代わり立ち代わりでやっているわけですけれども、なかなかやっぱり25～26年経つわけですけれども、なかなか入館者が減ってくるというのは、当たり前といたら当たり前というようなところがあると思います。ただ、本当に新しい有名な作家の作品展うんぬんというようなことをやればいろいろあると思うんですけれども、なかなか難しいというようなことを聞いていますので、これからなんか本当に中で話し合って、いかなければ、じり貧になってしまいますので、そのようなことでやっていきたいと思っています。

○議長（稲葉昭宏君） ほかにありませんか。

○2番（福本栄一郎君） これは、関議員とちょっと重複するかもわかりませんが、13ページと18ページの基金の関係で、ちょっともう一度お伺いします。

平成24年度は、歳入歳出差引額は1億8088万3000円、実質収支額、これは繰越明許がありますので、1億5199万6000円ですけれども。それから、18ページの基金ですけれども、合計が18億681万2000円。24年度中に貯金できたのが1億2895万4000円、そこで、総務課長が先ほどの関議員関係で答弁されましたけれど、もう一度、再度聞きますけれども、今の町長になって貯金が

どんかいできたんですか。

それが1点と、それから、これは毎年毎年繰越にできればとめどもなく貯金ができてきます。大体松崎町のこの程度の世帯数、人口の規模において、満足度というのは、どのくらいまで・・・、目標値というのではないでしょうけれども、その辺をまず、最初にお伺いします。

○総務課長（金刺英夫君）　まず、1点目の齋藤町長になってからどのくらい基金が積み立てられたかということですが、平成21年度の末時点で16億8000万円、財調だけではなくて、全部の基金ですね。24年度、今回の末で18億600万円ですから、1億6000万円位でしょうか。そのくらいの増加というふうな形になります。

（福本議員「満足度は。目標値があったら・・・」と呼ぶ）

○総務課長（金刺英夫君）　すみません、今の関係で3億7000万円でしたか、まつぎ荘への貸付がございますので、その分がプラスになります。

それから、基金がどれだけあれば満足かというふうなことですけれども、やはりどのくらいということをはっきり申し上げられなくて申し訳ないんですけれども、ちょうどいまくらいの・・・、7億円からありますので、これで今後見込まれる・・・、先ほど町長が言いましたけれども、いろんな公共事業、それから公共事業の中でも例えば清掃センターの関係の修理とか、そういったものが単費で出てまいりますので、そういったことを踏まえていくと、現状並みの7億円位があればいいのかなと考えております。

この額がおそらく今年度当初の2割相当、20パーセントくらいになるかと思います。

○2番（福本栄一郎君）　それで、町長にお伺いしますけれど、町長は町のトップですから。

ほかの議員との関連が重複してくるか、わかりませんが、先ほど言った収入の未済額の満足度、こちらの預貯金は将来は町のためという大義名分があると思うんですよ。その辺の絡みに関わって何もしてこなければ、どんどん、どんどん貯金が増えてきます。

ですから、地区の住民の要望があったならば、積極的に取り組む・・・、先ほど総務課長の答弁でもありましたけれども、その辺に絡めて、いわゆる貯金をして、町長が要望している「日本で最も美しい村」連合、今度加入が決まった。いろんな事業がありますよ。だけど、それは、都会からお客を呼び込む・・・、都会の人たちは非日常を・・・、いわゆる癒やしですか、これを求めて来る。

ところが、松崎町民は、約3000世帯、人口7500人、これが疲弊していると思うんです。貯金するのは結構。昔、言われましたが、町長は知っていると思いますけれども、民のかまどから煙が出ていないのに、経済が疲弊しているのに、預貯金も結構です。けれども、またここにくるでし

よう。一般家庭と同じだということも言っているんです。そうじゃないんです。一般家庭は入るを量りて出ずるを制すでしょう。役所の場合は違うんです。逆です。まったく。出るを量りて入る方は制限しなければいけない。なぜか、これはわかるでしょう。だったら、もっと地域経済が・・・、商店街を歩いても誰一人歩いていない。

よそから来ている、外資系が来ているのは、車が満車で止まらない状態。昔からある、商店街がある・・・、そっちはみんなシャッター街もしくは誰も歩いていないんですよ。町長は夜歩いたこともあるでしょうけれども。

こんな・・・、元の松崎の銀座通り、新浜通りは灯が家の中は消えているでしょう。外灯だけこうこうとついています。そういった場合に、いろんな住民からの不平や不満もあると思います。それが滞納なんかにつながってくると思うんですよ。その辺の積極的に町の定住者の仕事を増やす。その辺の考え方はどうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君）　そういうことは、中心に考えて私はやっているつもりですよ。

だけど、お金をうんぬんと出しても本当にそれだけのお金をもし借りて、誰かがやってくれるのかというのがあって、非常に厳しいようなところがあります。

ただ、福本議員が言うように、やっぱり地域が活性化しなければいけないので、職員もそういうことは耳を立てていますので、そのようなことにお金を使っていくべきだと私は思います。

ただ、今度、先ほど申しましたとおり、松崎町は非常にパイが小さいわけで、これから幼稚園、保育園、給食センター、防災関係のことがたくさん出てきますので、そうすると、かなり厳しいことになると思いますので、そのようなことを考えながら、精査しながらやっているつもりでございます。

○2番（福本栄一郎君）　それに関連して、地域経済が・・・、昔の明治維新じゃないですよ。殖産興業、これは国のスローガンであった。今の日本があります。町が、町民が豊かにならなければ・・・、要するに、イコール仕事はあたえてなければ、よそから来る人もいいんですよ。癒しを求めてくる。非日常を求めてくる。

ここに住んでいる町民の活性化はどうするんですか。ですから、民のかまどから煙が出ていないのに、よそから見に来てもしようがない・・・、やっぱりここが元気にならなければ、仕事がないければ、元気になりません。人口がどんどん、どんどん減ってきます。もう40人を割り込んでいるんです、若者が仕事がないから。安心した収入が定期的にもらってこない。いわゆる月給がこないから、みんなよそに行ってしまう。だから、子どももできない。人口がどんどん、どんどんバランスが崩壊してきます。ひいては、町自体の存続も危ぶまれてきます。自然減もあり

ますけれどね。

その辺の町長が・・・、いいです。町長がこの議会の冒頭に再度出馬すると言いましたよね。それに絡めて、今度のメインはなんですか。教えてくださいませんか。町長が立候補するにあたってメインを教えてください。経済的な施策の方で。

○町長（齋藤文彦君） だから、私は、最初から言っているとおり、おいしいご飯は一粒ひとつぶが立っていると、皆さん、元気でやってくださいよと、本当にこういうことをやりたいから、こういうところはどうかというのが、なかなか出てこないのをございます。

私は、全町まるごとふる里自然体験学校と言って、体験を通して対価を得るということを言っているわけですが、町民の皆さんが本当にやる気があって、やっていけば、それなりのことができるなと私は思っています。

ただ、いろいろな資金を用意した、何々の資金を用意した・・・、誰がどういうふうにするのかということが、なかなか難しいところがございますので、そのようなことをうまく勘案しながらやっていきたいなと思っています。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 質疑がないようですので、質疑を終結したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

○10番（鈴木源一郎君） 私は本案に反対をいたします。

本案は年間の決算ですから、中には必要な経費とか、私たちが要求をした問題が実現したというような点もかなりあるわけですが、私はそれに反対をするものではありません。

しかし、この決算は齋藤町政3年目の齋藤カラーが一番出せる年度だったわけですが、目立ったものはほとんどないと言わざるを得ません。

小さいものはありますけれども、あるけれども、目立ったものはほとんどないと言わざるを得ない。従って、長期低落傾向は歯止めがかからないという状況だと思います。

本案は、当初予算で自然と文化の薫る花とロマンのふる里松崎ということ掲げて展開をさ

せたわけでありますが、スローガンは大変空に輝いても、例えば、活力ある産業づくりという点一つをとっても、観光をみても、あるいは農林業をみても、あるいは商工業をみても低落する状況が止まらないという状況であります。例えばメインの美術館でも先ほど議論をしたとおりであります。

また、私が本案に強く反対するもう一つの理由は、水門づくりを強行しようとしているという町長の姿勢であります。浸水危険地域を無視して、意見を封殺して水門づくりを強行することは、これは許されないことであります。

また、国県に必要な時には必要なものを申すという姿勢がほとんど感じられないと、消費税8パーセントにしても、あるいはTPPをやればこれは米も壊滅してしまうというようなことがあるわけですが、これもものを申す姿勢は感じられないわけであります。

私は、以上、住民主人公の町政を目指して今後も頑張ることを表明しまして、本案に反対をいたします。

○議長（稲葉昭宏君） 次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

○1番（藤井 要君） 私は本案に賛成いたします

24年度の決算審議を行い、議員の方々からいろいろと非常に厳しいご意見が寄せられました。

当町におかれましても、町税をはじめ多くの歳入が減る中で、緊縮財政を強いられています。そのような中で、町民へのサービスの低下を起こさないよう、いろいろと知恵を絞り、やりくりしている様子もうかがえます。

リーマンショック後の経済不況により、多くの人たちが職に就けない。また、生活保護受給者が増加する中で、町民税や固定資産税の未納の増額がみられるものの、美しい村づくり加入やトレイルジャーニーなどの新しいことに取り組むなど、改善に努力していることも見受けられます。

9月8日には、**49年ぶり**に東京オリンピックが開催されることが決定、景気の先行き感に明るい兆しが見えてまいりましたので、少ない財源の中ではありますが、今後はメリハリを付けた事業展開、行政を行っていくことに期待し、本案に賛成いたします。

○議長（稲葉昭宏君） これをもって討論を終了します。

これより議案第57号 平成24年度松崎町一般会計歳入歳出決算の認定についての件を挙手により採決します。

本案は原案のとおり認定することに賛成の諸君の挙手を求めます。

（挙手多数）

○議長（稲葉昭宏君） 挙手多数であります。

よって、本案は原案のとおり認定されました。

午後１時まで休憩します。

（午前１１時３９分）
